

イネいもち病

1 病原菌の特徴

- (1) イネいもち病は、本県では山間山沿地域を中心に発生するイネの重要な病害の一つです。
- (2) 病原菌は、糸状菌(かび)の仲間です。
- (3) 越冬は、菌糸や胞子の形態で、種もみや稲わら等で行われます。
- (4) 越冬後、翌春に罹病残さが水を含むと胞子を形成し、第一次伝染源となり育苗箱や本田で発病します。
- (5) その後、病斑上に形成された胞子によって伝染を繰り返します。
- (6) 葉いもちが穂いもちの伝染源となります。



写真1 いもち病菌の分生子

2 被害の様子

- (1) いもち病は、イネの生育全期間で発生します。発生する部位によって、「苗いもち」、「葉いもち」、「穂いもち」、「穂首いもち」、「枝梗いもち」、「節いもち」、「籾いもち」などと言います。
- (2) 葉いもちは、葉身に病斑を生じます。新葉に感染すると、初め暗灰緑色の円形～楕円形の斑点を生じ、その後拡大して紡錘型となります。中央部が灰白色、その外側が褐色、最外部が黄色となり、この病斑を慢性型と呼びます。
- (3) 一方、急性型の病斑は、暗灰緑色のまま拡大します(急性型の病斑)。病斑上に多数の胞子が形成されるため、急速にまん延し、被害が大きくなります。分けつ期に病斑が多数形成されると草丈が低くなり、ついには枯死することもあり、これを「ずり込み」症状と言います。
- (4) 穂いもちは、穂首、枝梗、籾に発生し、これを総称して穂いもちと言います。穂いもちが発生するとより一層大きな減収要因になります。
- (5) 穂首いちは、穂首節に灰色の斑点が現れ、急速に拡大し、褐色の病斑が形成されます。出穂後 3、4 日までに感染すると、穂全体が枯死し白穂となります。それ以降の感染では枯死に至りませんが、登熟が悪くなり、品質が低下します。
- (6) 節いちは、葉鞘基部の露出している節が黒変し、この部分が折れやすくなります。



写真2 葉いもち(慢性型病斑)



写真3 葉いもち(急性型病斑)



写真4 穂いもち

3 発生について

(1) 発生条件

- ア いもち病菌は、温度が 20～25℃の日が続き、湿度が高くなると感染します。
- イ 曇雨天の日が続き、日照が少なく、植物体の濡れ時間が長くなると発生が拡大します。
- ウ 窒素肥料の多用等によって、イネが軟弱になると抵抗力が弱められ感染し易くなります。

(2) 発生消長

ア 保菌種子やほ場に放置された被害稲わら、籾がらが第一次伝染源となります。

イ 感染後、病斑が形成されるまでの潜伏期間は、5～10 日程度です。

ウ 苗いもちはや苗後期、葉いちは6月中旬～8月上旬、穂いちは8月上旬～9月下旬に発生します。

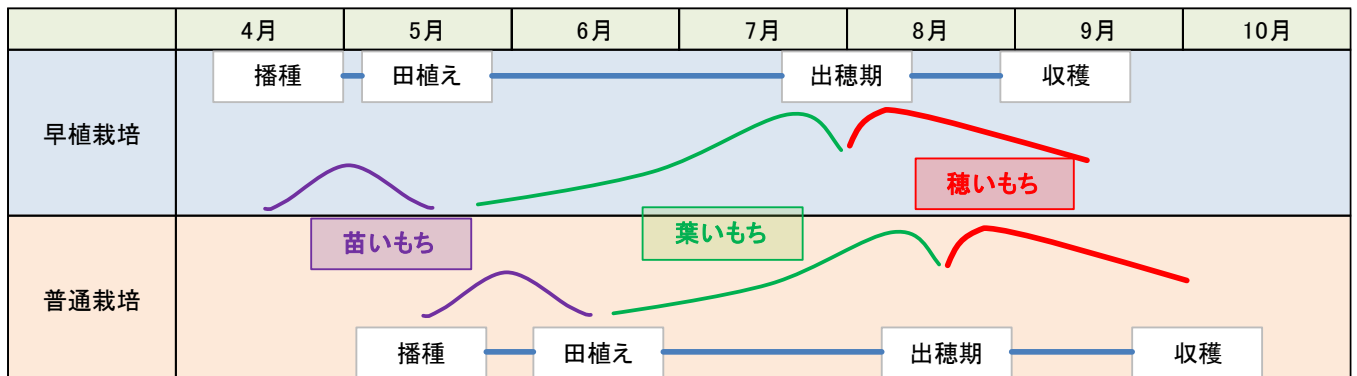


図1 いもち病の発生消長

4 防除時期と防除方法

- (1) いもち病に対する抵抗性品種を作付けします。(「彩のかがやき」等)
- (2) 種子は、採種ほ産種子を使用します。なお、やむを得ず自家採種する場合は、前作の無病ほ場から採種するとともに、必ず塩水による比重選を行います。
- (3) 種子は、温湯消毒(60℃、10～15分)を行うか、または薬剤による消毒を実施します。
- (4) ケイ酸資材の施用は、いもち病の発病を抑える効果があります。
- (5) 追肥等で、窒素肥料の多量施用を避けます。
- (6) 補植用の置き苗は、いもち病の感染源になるため、早めに処分します。
- (7) 省力で防除効果の高い箱施用薬剤を使用します。特に、山間山沿いのいもち病常発地域では、残効期間が長い薬剤を使用します。
- (8) 移植後におけるいもち病の薬剤防除は、薬剤の効果を確認し、発生状況に応じて適切に実施してください。
 - ア 葉いもちで急性型の病斑を確認したら、速やかに治療効果のある薬剤を散布します。
 - イ 葉いもちが多く発生し、上位葉で病斑が確認された場合は、穂いもちへの移行が心配されるため、穂ばらみ期と穂ぞろい期に予防効果のある薬剤を散布します。
 - ウ 病害虫防除所が発表する葉いもちの感染好適条件の出現状況を参考に早期発見に努める。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会
■ 問合せ先(原稿執筆)
埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661
埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409